



広重版画より 三島 朝霧

## 第2387回例会

2024.6.6晴

司会 遠藤眞道君

国歌斉唱 奉仕の理想

ロータリーソング 「奉仕の理想」  
指揮 前田房江君

### 出席報告

	出席総数	出席率	メンバー	修正率
前々回	33/46	71.74%	39/46	84.78%
今回	43/54	79.63%	会員総数	53名

欠席者 秋元君、芦川君、木村君、佐野君、清水君、須田君、  
諏訪部君、橋本君、町野君、三田君、森藤君

### 会長挨拶

会長 平出利之君

シンガポールの企業が開発した水上を低空で飛行する機体「Air Fish(エアフィッシュ)」という名前の乗り物を紹介したいと思います。これは、沿岸部の人の移動や物資の輸送を目的に開発され、来年の販売を予定しているそうです。サイズは小型のレジャーボートの大きさです。「Air Fish」は水面に浮かんだ状態で棧橋を離れ、離陸速度に達した段階で空中に浮上します。この棧橋は通常の船が使っている棧橋の事で、専用の棧橋ではありません。空中に浮上した後、飛行機のように高度を上げることはなく、水面から60cm~7mの範囲で移動します。時速200kmくらいまでのスピードが出るようです。燃料はレギュラーガソリンを使用しています。乗員2名と乗客8名まで乗れて、貨物輸送用とした場合は最大1トンまで積むことが出来るそうです。将来この船の使われ方は、公共交通・個人利用・沿岸警備・軍事等が予想されております。最近、ドローンが開発されて身近な存在になりましたが、その他には空を飛ぶ車や遊覧目的で200mまで潜れる潜水艇などが開発されております。技術の進歩は果てしなく続いていくようです。

### おめでとう

会員誕生日 古屋君  
入会記念日 栗原(達)君、森崎君、  
平出君、西本君

### 幹事報告

幹事 赤池克斗君

- 1.本日例会の卓話は西川洋司君です。よろしくお願ひいたします。
- 2.次回例会は、6月13日(木)18:30呉竹 夜間例会 クラブ協議会で各委員会の年間報告をしていただきます。
- 3.遠藤正幸君が名誉会員として理事会で承認されました。
- 4.清水英治君が6月30日をもって退会することが理事会で承認されました。
- 5.三田明宏君が6月30日をもって退会することが理事会で承認されました。

## サラリーマン時代に遭遇した災害の記憶

西川洋司君

昭和59年に社会人になってから、四半世紀以上東京に勤務していましたが、その間2回大きな事件というか災害に遭遇しました。1回は皆様方も影響があったと思いますが、東日本大震災です。もう一つは、地下鉄サリン事件です。今日はその当時の実際の様子を思い出しながらお話ししたいと思います。多少記憶違いがあるかもしれませんが、ご容赦ください。

地下鉄サリン事件は、ご承知のとおり1995年(平成7年)3月20日月曜日に東京の都心部で発生した大規模なテロ事件です。オウム真理教の犯行です。地下鉄車内に致死性の神経ガスであるサリンを撒布し、無差別殺傷を狙ったものでした。オウム真理教は渋谷で選挙活動を行っているところなどをしばしば見ており、麻原彰晃の名前を連呼されて頭にこびり付いてしまい迷惑でしたが、少々頭のおかしい連中だくらいにしか思っておりませんでした。ニュース番組で教団と信者の家族間のいざこざや、家族側の弁護士一家の失踪など報道されてはおりましたが、オウム真理教の問題が、この日まで自分の身に降りかかって来るとは想像もできませんでした。

当時小田急線の生田に社宅があり、そこから小田急線・千代田線・日比谷線を経由して小伝馬町駅で下車しておりました。今も生田に家がありますが長女が転校したくないというもので、社宅の近場で建売を購入したものです。パブルはとつくに弾けておりましたが、それでも今の相場から考えるとえらく高い買い物でした。

ご存じの方もいると思いますが、千代田線・日比谷線の乗り換えは、日比谷駅か霞が関駅で行きます。まさにオウムが狙った地区を通過する通勤経路です。ですが、その日は社宅にいた後輩から、営業車で小伝馬町ビルに行くから一緒に行きましょうと誘われ、たまたま電車を使わずに小伝馬町ビルに早目に到着していたのです。九死に一生は大袈裟ですが、後から小伝馬町駅では4人死者が出たと聞き、ゾッとしました。

さて、いつもより早く会社に着いて、新聞を眺めていましたが、いつまで経っても誰も出勤してきません。地下鉄のトラブルでもあったのかなと思いましたが、小伝馬町というところは、JR馬喰町駅や都営地下鉄馬喰横山駅も近いので、一つの経路が断たれても、回避できる場所なので、誰も来ないのはおかしいのです。そこで、会議室にあるテレビを点けてみると、地下鉄で爆弾テロがあったらしいと報道しておりました。

こりゃ大変だと思い、ビルの窓から外を見ますと、人っ子一人いない。それどころか、車も走っていない。窓から見える通りは江戸通りという、日本橋から両国方面への交通量の多い通りです。その江戸通りがまるでゾンビ映画の廃墟のシーンのようにだれ一人・車一台いないのです。とにかく、ビルのそのフロアには私と、営業車を運転してきた後輩の二人しかいませので、電話番号もないから、ビルの中でしばらく様子を見よ

うということになりました。ビルからは見えませんでしたが、救急車や消防車・パトカーのサイレンが鳴り響いているのがわかります。爆弾テロの爆心地は小伝馬町ではないのかと感じました。何しろ誰も来ないのは鉄道事情からしてもおかしいのです。今と違って、携帯も普及しておりませんし、ネットも未発達でしたので、テレビを見るしかありませんが、爆弾テロらしいと言うばかりで詳しいことはわかりませんでした。家に電話して「俺は大丈夫だ」と言うと、家内が「はあ？何の話？おかあさんといっしょしか見てないからわかんない」とか全く能天気な様子で大変腹が立ちました。すぐにニュースを見ると言いましたが、まああれくらいの反応の方が良かったのだらうと思います。

だいぶ時間が経ち、ビルの外にこわごわ出てみると、小伝馬町駅付近に救急車・消防車・パトカーが群がっているのが見えます。反対の馬喰町駅の方にはバリケードを置いて規制線が張ってありました。規制線の外側には人影がちらほらあります。これで合点がいきました。車も誰も来ないのは小伝馬町駅を中心にして規制線を張ったからなのだ。自分は規制線の内側にいるのだと理解しました。そうこうしている内に、バリケードを乗り越えて、入社する人たちがちらほらでてきました。その人たちの話によると、どうやら爆弾テロではなさそうだと、でも小伝馬町駅では何人も救急車で運ばれているようだとのことで、何が起こったのかは暫くわかりませんでした。当日原因の開示は無かったように記憶しております。

午前中は出社できた人数が少なかったので、電話対応が大変だったです。取引先からの安否確認などの電話が多かったのですが、なにしろ出社できているメンバーが少なかったので、もう適当に流すしかありませんでした。その日お昼を食べたのかとか覚えておりませんが、夕方にはほとんどの社員がいたと思います。

帰りがまた大変でした。営団地下鉄(千代田線・日比谷線)は使えなかったと思います。そこで、私の場合は馬喰横山駅から都営新宿線で新宿まで出て、小田急で帰りました。翌日も営団地下鉄は一部使えなかったような気がします。昨日のルートを使って出社しましたが、前日の事故の原因が良く分からなかったのも、非常に気味の悪い出勤でした。なにしろ、最寄りの小伝馬町駅で死者が出ているのは報道されていたからです。

事件から2~3日後にオウムが毒物を散布したとして警察による強制捜査が行われやっことこの概要がつかめていったのだと思います。しばらくは千代田線・日比谷線に乗るのが本当に気分悪かったです。

今にして思えば、世界初の都市型毒ガステロに間近で遭遇したのは、個人的には貴重というか滅多に無い経験をしてしまったと思います。それにしても、通勤途上の多くの人々を巻き込み、また多くの犠牲者を出した無差別テロには、今振り返っても強い憤りをおぼえます。以上が地下鉄サリン事件の私の経験です。

※新会員紹介・表彰・スマイルは次号に掲載します。

(週報担当:前田博利)